

田野地区タウンミーティング開催報告

【日 時】 令和4年12月3日（土）19：00～20：30 【場 所】 田野公民館 2階健康増進室

【参加者】 田野地区連合自治会長など全11人

市長、公民館長、市民生活部長

【次 第】 1 開会 2 挨拶（田野地区連合自治会長）

3 市長挨拶・事業説明（別添資料）

4 事業説明：テーマ「公共交通を考える 高齢者の移動手手段の確保」

5 まとめ・閉会

概 要

【自治会長挨拶】

田野地区では、各家庭に1台、自動車か原動機付自転車を有している現状だと思う。運転免許も所持していると思うが、そんな中でどのような公共交通のあり方が望まれるのか、考えていきたい。

【テーマ提起の経緯】

現在、田野地区には80歳以上の方が約320人いる。今後、免許返納をすると、どのように移動するか。スーパーやコンビニ（地区内になし）に行くためには公共交通を利用することが想定される。

手段として、バスとデマンドタクシー（通称：よりそいタクシー）が考えられるが、双方が共存し利便性を高めていくために意見交換したい。

I デマンド型乗合タクシーの運行状況

- ・西条市では高齢者の移動手手段として「よりそいタクシー」の導入を進めている。
- ・現在（田野地区を含む）丹原地域、加茂地区、西条地域（旧西条市域）でよりそいタクシー（予約制）を運行している。
- ・丹原地域では平成31年2月から開始し、週2日（火、水）、一日4便。利用登録者は令和4年11月1日時点で162人。
- ・なお、利用者には子どもも含まれており、下校後、祖父母の家に行くなどでうまく利用している。
- ・乗り合い型タクシーであるが、乗合率はほぼ1人の状況であり、認知度と合わせ乗合率を高めるためには地域の皆さんのご協力が必要。
- ・利用登録者を対象としたアンケート（令和4年10月実施）では、「移動に困っている」人が約2割、「利用したことがない」人が7割超で、「将来のためにとりあえず登録した」人が約4割、「使いづらいから利用しない」人が約3割。使いづらい理由は「運行曜日が限られている」ことが約9割を占めた。
- ・加茂地区では、人口107人に対して登録者数は55人。令和2年度にバス路線（加茂線）が廃止された時に自治会を中心に利用促進を図っていただいた。コロナの影響か、徐々に乗合率が下がっているのが課題。
- ・西条地域の利用登録者は285人（令和4年11月末時点）。70代以上が8割以上を占める。玉津校区、禎瑞校区は以前からよりそいタクシー導入の要望があり、比較的、登録者が多い。10月、11月の運行実績として、稼働率は71.3%。

II 地域公共交通の現状と課題

- ・全国的な動向として、75歳以上の運転免許返納が急増している。西条市でも年間500人程度が返納している。
- ・地方での、乗り合いバスの利用率は85%だが、田野地区を走るせとうち周桑(株)バスは20%を下回っている状況。
- ・収支率の低さが深刻になっており、事業は赤字、また運転手不足が顕著になっている。
- ・市内のバス乗車人数は年々減少しており、それに伴い赤字分を市の補助金で補填しているため、補助金額は大きくなっている。（令和3年度：約1億2千万円）
- ・せとうち周桑バスの1便あたりの利用者数は概ね1～2人。（令和3年度：壬生川線は1.2人）
- ・市では、バス路線見直しフロー図を作成。廃止を含めた再編を検討している。この基準に当てていくと、路線廃止の対象となるのが「三芳線」と「保井野線」。

Ⅲ 地域公共公共交通政策における市の方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・バス事業者と路線廃止フロー図に基づく路線廃止等について協議する。 <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年9月廃止（済み） 禎瑞オレンジハイツ線 ・令和5年9月廃止（予定） 今治小松線、保井野線 ・令和6年9月廃止（予定） 三芳線 ・廃止を含め見直し対象 関屋線、湯谷口線 ・壬生川線（湯谷口～せとうち周桑本社営業所）を西部地域の循環線として再編できないか検討する。 ・令和5年度によりそいタクシーの実績検証、公共交通ニーズ等のアンケートを実施する。 ・それを踏まえ、令和6年度に路線バスが廃止される地域によりそいタクシー導入を検討する。 ・行政の関連事業（バス補助、よりそいタクシー、福祉系バス・タクシー補助）の支出額が年間1億2,700万円（平成30年度の実績額）を超えない範囲で多くの人々が利用できる公共交通を検討する。 	
参加者の発言要旨	市の発言要旨（及び対応）
グループでの利用	
<p>事前の意見出しでは、よりそいタクシー利用者を増やし、乗合率を上げるために田野地区でできることとして、グループを作って利用してはどうかとの意見があった。</p>	<p>橋地区では、地域で「買い物ツアー」を実行している。バスを借りて、みんなで買い物や食事をするというもの。また、山口市の乗り合いタクシーを運行している地域では、グループ単位で利用する方法を取っている。</p> <p>外出したくても、できない方がいると思う。近くの方からお声がけいただき、一緒に外出し、買い物できることが理想だと思う。</p>
<p>丹原地域のよりそいタクシーは、乗降ポイントが指定されているが、ポイントを増やすことは可能か。</p> <p>ポイントで乗降となれば、どうしても路線バスと同じような感覚が生まれる。始発地区（中川）の乗客がいれば、グループ全員で同車できない可能性がある。</p>	<p>西条地域では、特に乗降ポイントを定めていない。丹原地域でも乗降ポイントを増やすことは可能である。また、どこでも乗り降りできるように変えていくことも検討する。</p> <p>一便あたり2台のタクシーを用意しており、人数に応じてジャンボタクシーの利用も可能。</p>
運行エリアの拡大、増便	
<p>よりそいタクシーの運行エリアは決められていると思うが、広域バスとの接続のために、壬生川駅や国道196号線の方まで範囲を広げることが可能か。</p> <p>それに併せてタクシーの台数を増やすことも考えているか。</p>	<p>今後、運行エリアを東予地域にも拡大し、「西部地域」にしようと考えている。</p> <p>西条地域では全3台で運行しているが、それで足りるのかという話もある。利用状況によっては台数を増やしていきたい。ただし、タクシー事業者との協議の上、検討しなければならない。</p>
利用料金の助成	
<p>よりそいタクシー利用料（一回500円）を無料にするのはどうか。</p> <p>バス補助に多額のお金をかける代わりにタクシーをいつでも、誰でも利用できるよう充実させてはどうか。実際にタクシーを利用する人は限られるだろうが、バスを減らせば、タクシーの補助にお金をかけられるのではないか。</p>	<p>よりそいタクシーのメリットの一つとして、利用がなければ運行しないので経費がかからない。バスの場合は、定期的に運行するので利用がなくても経費がかかってしまう。</p> <p>なお、平成30年の実績（乗合率1.0）での市からタクシー事業者への助成額としては、利用者一人あたり2,168円である。乗合率や走行距離によって、額は変化するが、運行には経費を要するので、利用者からのご負担もお願いしたい。</p> <p>ご意見のように、バス路線を再編（廃止）し、よりそいタクシーを上げようとしている。全域に導入した場合、経費も増えてくるので、乗合率を上げていかなければならない。</p>

参加者の発言要旨	市の発言要旨（及び対応）
利用促進	
<p>集落内に独居老人が数人おり、中には自分で運転する人もいるので、タクシーを利用していない。今すぐに利用率が上がるわけではないが、近いうちに必要性が出ると思う。利用者の関係性がある人から、誘い合わせるなどで、効率的に利用したい。</p> <p>移動手段をどうしているか聞くと、知り合いや親族に頼っていると言いながらも、そこには遠慮があると思う。 移動手段に困っている人に訴求し、利用者が増えるよう、しっかりPRしてほしい。</p>	<p>ターゲットとなるお年寄りの方には、紙媒体（チラシ）で情報が届くようにしなければならない。また、LINEは（高齢者の）子どもの世代を通して周知することも良い。家族から声をかけていただけるよう、情報発信に努めたい。行政としてタイムリーな情報提供を心がける。</p>
<p>防災の関係で地域の共助を進めるため、独居老人の支援等を話し合うことがあると思う。そのような時に、普段の移動が困っていないか、ということにも話を掘り下げて、考えてほしい。</p> <p>利用者の立場になって、多面的に考えなければ、利用率は上がらないと思う。運行业者も含めて積極的に営業し、運行日も増やしてほしい。</p>	<p>市民の方がどう考えるか。よりそいタクシーをもっと利用したいというリクエストがあれば、応えていくべきだが、必要性がないところに行行政主体で進めていくことは難しい。</p> <p>西条地域で導入後2か月間の利用者の声（一部）は、「今まで知り合いに頼んでいたが、毎回は頼みづらかったので助かる」、「バス停まで距離があり、特に買い物帰りは助かる」、「バス路線は遠く、タクシーは料金が高いので外出を控えていたが、よりそいタクシーは料金が安く助かる」、「もう少し回数を増やしてほしい」などがある。</p> <p>西条地域では、稼働率も高くなっており（令和4年11月：71.3%）、利用者の声を参考に、便数を増やすことも考えていく。</p>
その他：ごみ減量に向けた意識付け	
<p>4月からごみ袋を有料化すれば、不法投棄が増えるのではないかと。以前にも粗大ごみ（家電など）が雑草地に捨てられたことがある。土地の所有者から被害届を出すようにとのことだが、公共の場所（河川敷や道路脇など）への不法投棄、ポイ捨てが多くなると想像される。</p> <p>また、地区外の人が無断でごみステーションにごみを出していることがあり、利用できる人を明確化することも必要。</p> <p>ごみの正しい分別、また資源化について市民の意識を高めなければならない。小学校で廃品（段ボール、新聞紙、古紙）回収をしているが、教育の一環として学校の中でごみを考えるような機会も必要。かつての『ベルマーク』のような取り組みが有効と考える。</p>	<p>実際に不法投棄が増えるかどうかは、市民の皆さんの心に訴える問題である。不法投棄は犯罪であるため、市がパトロールを行うなど、しっかり対応していく。</p> <p>これまで、ごみ袋を無料で配り、分別も容易だった一方で、ごみを処分するための支出と収入が全く釣り合っていない。将来世代に負担がしわ寄せされてしまう。</p> <p>ごみ減量に取り組むため、市民の代表らに審議していただき、有料化をスタートさせる。適切に分別していただくために、わかりやすいガイドブックを作成予定。生ごみ処理機の補助も行っている。</p> <p>ベルマークのように学用品などと交換できる取り組みは良いが、PTAなどに負担をかける部分もあるので、学校やPTAと協議しながら対応したい。</p>

参加者の発言要旨	市の発言要旨（及び対応）
その他：LOVE SAIJOポイント（地域通貨）	
<p>マイナンバーカードの取得により、LOVE SAIJOポイントが付与される。</p> <p>また、加盟店でのLOVE SAIJOポイント決済により、30%の還元（上限5万円）が受けられるキャンペーンは、当初12月31日終了予定（※予算に達し次第終了）と聞いていたが、どういうわけか11月上旬で終了していた。</p> <p>スマホを持っていない人への対応（ポイントカード）は、10月から追加され不公平感もある。15%でも良いので、幅広くみんなが還元を受けられるようにしてほしい。</p>	<p>西条市のマイナンバーカードの申請数は、県内で下位の状況で、取得を促進するために、行政手続き等において利便性を訴えることが必要。</p> <p>LOVE SAIJOポイントは地域内の消費喚起対策の狙いもある。ポイントが流動することで、市内の小売店等に大きく還元しており、2億2千万円ほどの経済効果があった。</p> <p>前回の石鎚藩札では、紙媒体（クーポン券）は完売だったものの、電子版は40%程度に留まった。ただし、紙では不正防止などの経費を要するので利用者への還元率が低くなる。</p> <p>スマホユーザーは人口全体の80%になっている。デジタルに慣れてほしいが、抵抗がある方もおり、特に高齢者への支援が必要と考える。</p>
<p>【まとめ】</p> <p><市長> 公共交通やごみ処理については、生活に身近な問題でいろいろ不安があると思う。人口減少やコロナの影響もあり、これまでと形が変わってくる。西条市も変化に対応していかなければならないが、デジタル化など、なかなかそこに慣れない人への対応も同時に考えたい。皆さんのご意見も聴かせていただきたい。</p> <p><連合自治会長> 新しいごみの施策については、出前講座を予定しているので、そちらで詳しく説明いただける。公共交通については利用する皆さんの立場になって運行を考えていきたい。</p> <p><当日の様子></p>	

